

埼玉県における産業動向と見通し

産業天気図は、業種によるバラツキが目立ち、先行きは横ばいで推移すると

概況

わが国の景気は、持ち直しの動きが続いているものの、7月中旬以降の新型コロナウイルス感染症の感染第5波を受けた緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象エリア拡大により、そのテンポが弱まっている。

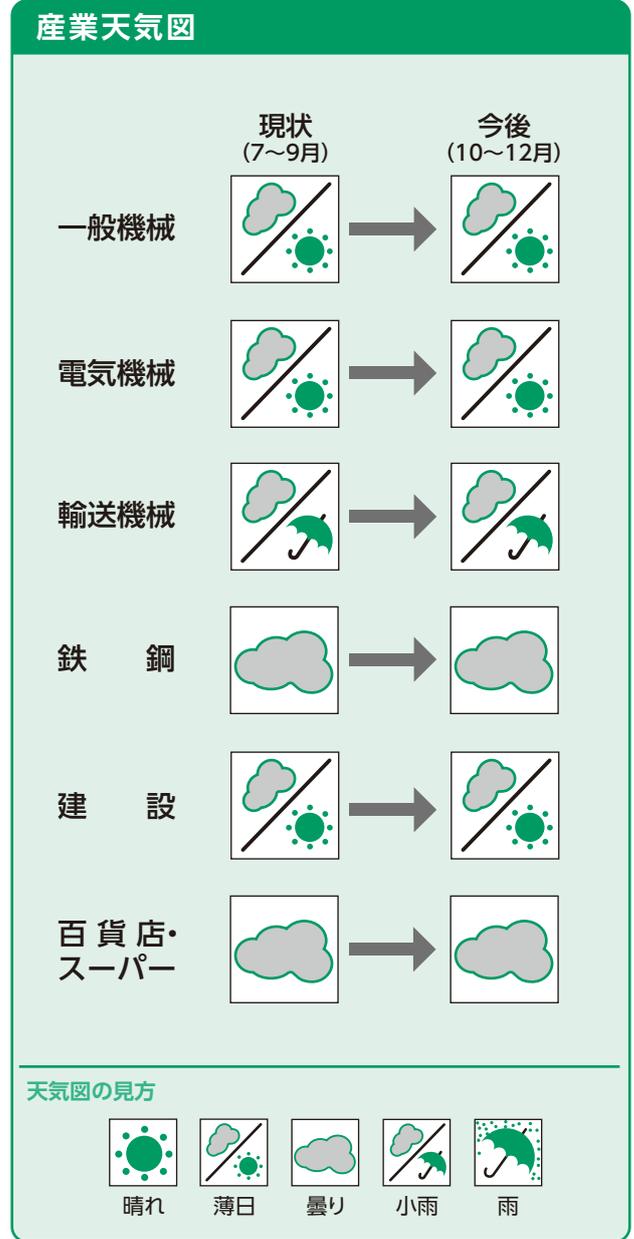
埼玉県の景気は、感染第5波の影響により、旅行や飲食サービスなど個人消費の一部に弱い動きがみられたが、総じてみれば持ち直している。

聞き取り調査の結果、埼玉県の7～9月期の産業天気図は、一般機械、電気機械、建設が「薄日」となる一方、鉄鋼、百貨店・スーパーが「曇り」、輸送機械が「小雨」となり、業種によるバラツキが目立った。

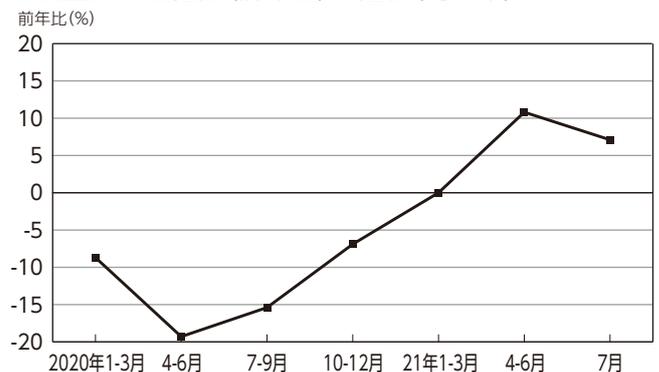
10～12月期の天気図は、いずれの業種も現状から横ばいで推移する見込みである。但し、変異株による感染再拡大の懸念等不安要素も残る。

主要産業の動向は、以下の通り。

- **一般機械**の生産は、前年を大幅に上回った模様である。先行きについても、前年を上回って推移するとみられる。
- **電気機械**の生産は、電子部品・デバイスを中心に着実に改善している。先行きも現状程度の堅調な推移が見込まれる。
- **輸送機械**の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きも、新型コロナの影響による部品や半導体不足の影響で、弱い動きになると予想される。
- **鉄鋼**の生産は、前年を上回ったとみられる。先行きについても、前年を若干上回る水準で推移しよう。
- **建設**は、公共、民間とも手持ちの工事量が多く前年並みで推移した。先行きも、現状程度の推移が見込まれる。
- **百貨店**の売上は減少、**スーパー**の売上は堅調に推移している。先行きは百貨店は上向き、スーパーは売上げが一巡するため前年割れだが一昨年比では増加が続く。



● 鉱工業生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

みられる

主要産業の動向

(1) 一般機械…前年を上回る

県内の一般機械(汎用機械+生産用機械+業務用機械)の生産指数は、新型コロナの感染が広がり始めた2020年1~3月期に前年比▲22.3%と大きく減少し、その後も大幅な前年割れが続いたが、10~12月期には汎用機械や生産用機械が前年を上回ったことから、同▲6.4%まで減少幅が縮小した。2021年に入っても一般機械の生産は持ち直しの動きが続き、1~3月期は同+29.9%、4~6月期は同+22.9%と前年を大幅に上回った。

2021年7月の生産指数は、生産用機械や業務用機械の生産は前年を下回ったものの、汎用機械が高い伸びを続けたことから、前年比+17.2%と前年を上回った。7~9月期を通して、一般機械の生産は前年を大幅に上回ったとみられる。

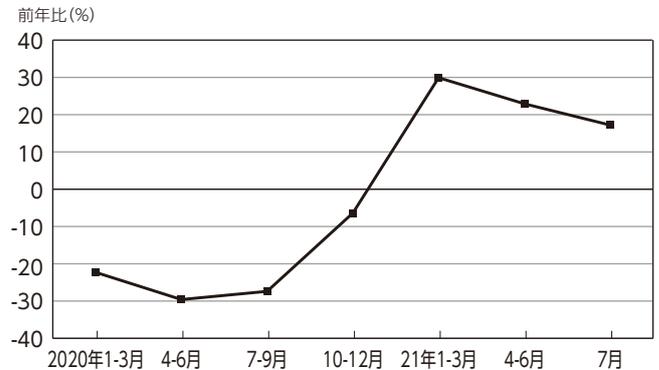
汎用機械では、空気圧機器の生産が工作機械向けを中心に高水準で推移している。前年の春先に大きく落ち込んでいた歯車も今年に入って持ち直しに転じ、足元も前年を上回って推移している。

生産用機械では、半導体不足の状況を受けて、半導体製造装置の生産が前年を上回って推移している。金型も比較的堅調に推移してきたが、足元では自動車向けが減少しているようだ。

業務用機械では、医療用機械器具は今年の年初には生産がいったん回復したが、足元では再びやや低調な推移になっている。パチンコは、新型コロナの影響で遊戯人口が減少しており、生産は引き続き低調に推移している。

半導体については、自動車向けや電子機器向けなどを中心に世界的な規模で不足状態が続いていることから、今後も半導体製造装置の生産は堅調に推移しよう。また、工作機械も、欧州や米国向けの輸出が好調なことに加えて、国内でも事業再構築補助金の採択案件などが需要を下支えするとみられるこ

●一般機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(注)一般機械=汎用機械+生産用機械+業務用機械

とから、当面は堅調に推移しよう。先行きの一般機械の生産も、前年を上回って推移するとみられる。

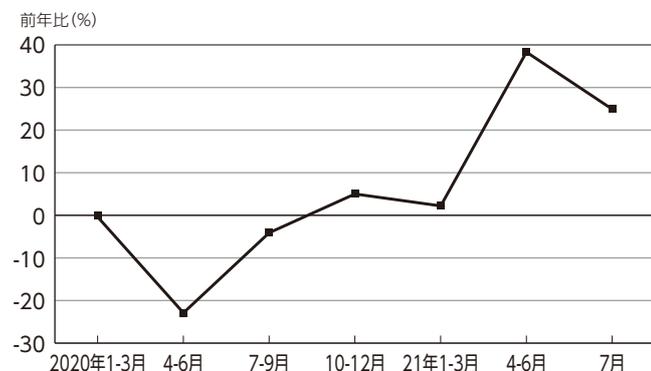
ただし、このところ特殊鋼やエンジニアリングプラスチックなど様々な原材料の価格が上昇し、コストを大幅に押し上げていることから、収益面の先行きは楽観を許さない。

(2) 電気機械…着実に改善している

県内の電気機械(電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械)の生産指数は、2021年1~3月期前年比+2.2%、4~6月期同+38.3%と、新型コロナの影響が大きかった2020年4~6月期の同▲22.9%を底に持ち直しており、7~9月期も増加が続いたとみられる。電気機械全体では、中国、米国、国内でも、自動車、生産機械、家電等の生産が回復していることに伴い、これらに組み込まれている電子部品・デバイス、電気機械の需要が大きく増加し、生産は着実に改善している。

電子部品・デバイスの生産は、4~6月期前年比+36.6%、7~9月も増加が続いたとみられる。自動車向け、産業機器向けの電子部品の需要が大きく増加したことに加え、新型コロナの影響によるアジア各国での生産の落ち込みなどから、世界的に供給不足の状況となっており、県内での生産は増加している。自動車メーカーや産業機械メーカー、家電メーカーなどは、部品の在庫を積み増す動きが続い

●電気機械全体の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(注)電気機械全体=電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械

ており、供給側は増産で対応しているが、依然供給不足の状況が続いている。自動車向けをはじめとして様々な分野で、組み込まれる電子部品は高度化とともに、点数も増加しており、電子部品・デバイスの生産は、当面、好調に推移する見込み。

電気機械の生産は、4~6月期前年比+17.4%、7~9月も増加が続いたとみられる。電気機械は県内で生産されるものは、産業向けがほとんどである。県内で生産される電気機械の多くは、生産機械や情報システムなどに組み込まれる電気関連の部品や装置であり、組み込まれた機械は海外へ輸出されることも多い。生産機械は中国での需要増や国内でも設備投資が持ち直していることから生産増の動きが続いている。情報化投資も堅調なことなどから産業向けの電気機械の生産は持ち直している。

情報通信機械の生産は、4~6月期前年比+65.4%、7~9月も増加が続いたとみられる。現在県内での生産は業務用通信機器、計測機器および、カーナビ、カーオーディオが中心となっている。自動車の生産回復を受け、カーナビ、カーオーディオなどの生産が好調なことに加え、設備投資の持ち直しから、その他の情報関連機械の生産も好調であった。

先行きについては、電気機械全体について堅調な動きが続くとみられる。自動車の電動化や電子制御の進展にともなう電子部品の需要増や、5G関連やデジタル化に伴うデータセンター整備に加え、防

災、防犯関連の監視カメラや監視システムなどインフラ関連への期待も大きくなっている。

(3) 輸送機械…生産は前年を下回る

乗用車:県内の乗用車販売台数は、1~3月期が前年比+2.9%、4~6月期が同+24.2%と、前年に新型コロナウイルスの影響で大きく減少した反動もあり増加した。しかし、7~9月期には同▲17.2%と再び減少に転じ、新型コロナウイルス感染拡大前の一昨年比でも▲26.9%と大きく減少した。半導体不足で完成車メーカーの減産が広がっていることや、納期の遅れが影響しているものとみられる。

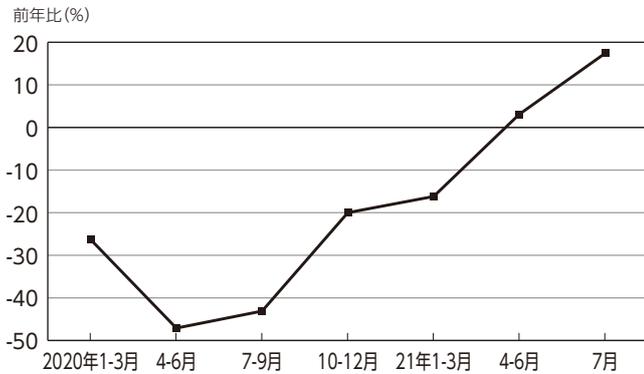
生産動向をみると、県内の輸送機械(乗用車・トラック・自動車部品等を含む)の生産指数は、新型コロナウイルスの影響で工場の稼働停止があった昨年4~6月期の同▲47.1%を底に徐々に減少幅を縮小し、本年4~6月期には同+3.1%と増加に転じたが、一昨年比では4割程度減少している。7月は前年の水準が低かったこともあり同+17.4%と増加したが、8月以降は半導体不足や部品不足などもあり減産が行われ、7~9月期全体では前年を下回り、一昨年比でも大幅に減少したとみられる。

先行きについては、新型コロナウイルスの影響による部品不足や半導体不足による減産の影響が懸念され、県内の生産は弱い動きになると予想される。

トラック関連:トラックの生産は、新型コロナウイルスの影響で昨年4~6月期に大幅に減少したが、その後減少幅を縮め、今年に入り前年を上回って推移しているとみられる。海外景気の回復から輸出向けが増加に転じ、国内向けも増加している。新型コロナウイルス感染拡大前の一昨年の生産水準にも近づいているようだ。大都市圏の再開発やネット通販の拡大で物流向けの需要が比較的堅調だ。

景気は緩やかながらも上向く方向にあり、企業業績も持ち直しており、企業の設備投資も増加計画となっている。先行きはトラックの生産も増加すると予

●輸送機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



想されるが、新型コロナの影響による部品不足や半導体不足に伴う生産への影響が懸念され不透明感は強い。

部品メーカー:完成車メーカーの生産は乗用車が前年を下回り、トラックが前年を上回ったとみられることから、部品メーカーの生産は前年並みで推移した模様だ。

先行きについては、部品や半導体不足の影響で、完成車メーカーの生産が弱含みとなることから、部品メーカーの生産も弱い動きになると予想される。

(4) 鉄鋼…前年を上回る

県内の鉄鋼の生産指数は、2020年4～6月期に前年比▲10.3%と大きく落ち込んだ後、7～9月期に同▲12.4%と更に減少幅が広がったが、10～12月期にはほぼ前年並みの水準まで持ち直し、2021年4～6月期には同+25.2%と大幅に前年を上回った。2021年7月も同+19.7%と前年を上回っており、7～9月期を通して見ても、鉄鋼の生産は前年を上回ったとみられる。

首都圏では、2020年の春先以降、H型鋼を中心に建設用鋼材の需要が上向いている。県内で生産される棒鋼は、建設現場における鉄筋組立工の不足などもあって伸びが抑えられているものの、緩やかに持ち直している。

訪日外国人の減少を受けて、ホテルの建設は低

迷が続いているものの、首都圏の分譲マンションの着工戸数は、このところ前年を上回って推移している。前年に大きく減少した病院や介護施設などの医療関連施設も、今年に入って着工戸数が増えている。スマホの5G基地局など通信施設は高い伸びとなっており、物流施設についても引き続き堅調に推移している。テレワークの増加などを受けて落ち込んでいた都心部のオフィスにも動きがみられる。

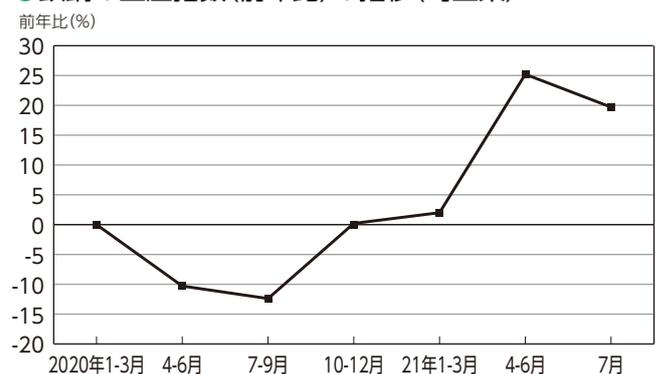
先行きについても、鋼材の生産は前年を若干上回る水準で推移しよう。

しかし、収益面ではスクラップ価格が高値圏で推移し、コストを大幅に押し上げている。鉄鋼生産が増加しているベトナムやインドネシアなどでスクラップの需要が増加しており、輸出価格の上昇に国内のスクラップ価格も引っ張られているようだ。鋼材メーカーも、製品価格の引き上げを進めているものの、スクラップ価格とのスプレッドが縮小しており、収益は大幅に悪化している。

銑鉄鑄物の生産は、1回目の緊急事態宣言が発出された2020年の4月から5月にかけて、前年実績を大幅に割り込んだが、その後は徐々に減少幅が縮小してきた。2021年に入って、生産は前年の水準を上回っている。米国や欧州の景気回復に伴い、輸出比率の高い工作機械向けなどが上向いている。

一方、堅調な公共投資の動きを反映して、高い水準で推移してきた鑄鉄管は、足元では若干前年を

●鉄鋼の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



下回って推移している。

今後も、銑鉄鑄物の生産は前年をやや上回る水準で推移するとみられる。しかし、スクラップ価格の上昇に加えて、鑄物用銑鉄の価格も大幅な値上げが見込まれている。製品価格引き上げ交渉が進められているものの、コストの上昇に追いついていないようだ。先行きについても収益は厳しい状況が続くとみられる。

(5) 建設…ほぼ前年並みで推移

公共工事: 県内の公共工事請負金額は2021年1～3月期前年比+9.9%、4～6月期同+22.1%、7～9月期同▲2.2%と振れはあるものの、好調な推移が続いている。公共工事の発注は順調で受注残は多く、足元の工事量も高水準で安定しており繁忙状況が続いている。県内業者の受注状況は価格面を含めて良好であり、相応の収益を確保できている。県内の公共工事は、人手の問題もあり手一杯というところもある。人手の問題は、高齢化が進んでいることもあり、深刻度を増しているところが多い。

老朽化したインフラの更新や補修の必要性が高まっており、建物のほか、河川、橋梁、道路なども改修・補修工事が多く、新規の建設案件は少ない。

先行きは、当面堅調に推移するとみられる。自然災害が多くなっており、災害対策や老朽化したインフラの改修などが期待されている。

民間工事: 県内の非居住用の建築着工床面積は2021年1～3月期は前年比+49.0%、4～6月期は同▲11.8%、7～9月期は前年並みとなった模様。月毎の振れはあるものの、民間工事は着工ベースで持ち直している。また、受注残は相応に確保しており、工事量はほぼ横ばいの推移となっている。

用途別では倉庫など、運輸業用が引き続き好調である。2021年1～6月期について、運輸業用は県内の非居住用の着工床面積の42.4%を占めている。やや低調だった、工場や商業用も持ち直しの動きが

みられる。県内の工事の多くは県内業者が請け負っており、価格面でも良好な状況が続いている。

先行きは、都内での受注競争が激しくなると、県内でも競争が厳しくなる懸念もあるが、現状では大きな影響はみられず、当面、工事量、価格面とも現状程度で推移する見込み。ただ、鉄鋼や木材など資材価格上昇の影響が懸念される。

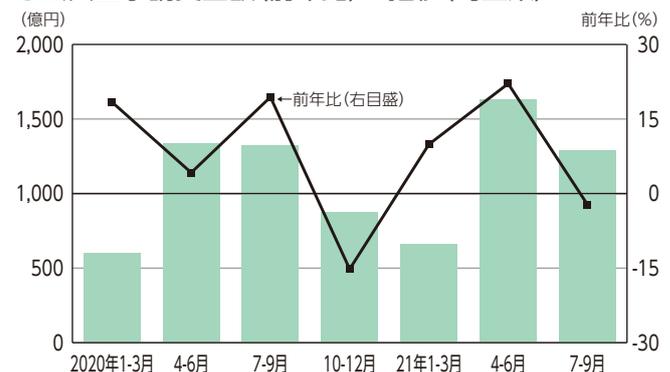
住宅: 2021年1～3月期の新設住宅着工戸数は前年比▲0.6%、4～6月期は+3.1%、7～9月期も増加となった模様。減少が続いていた2020年からは持ち直している。

マンションは、価格が高止まりしており、全体として販売が不調となっていたこともあり、このところ販売戸数は減少している。販売戸数の減少から契約率は若干上向いているものの、マンション適地が少なくなっていることや、販売側の収益面も厳しくなっていることもあり、供給は手控え気味となっている。

戸建の分譲住宅は新型コロナの影響を懸念し、土地仕入れや新規着工を絞ったことから着工戸数は減少している。好立地物件を中心に販売面は悪くない模様であり、場所の選別が続いている。分譲住宅はマンション、戸建てとも県南、県南西部など東京都に近い地域に着工が集中する傾向があり、地域による差が大きくなっている。

貸家は、空室率は低下傾向ながら、新規の着工は引き続き手控えられている。

●公共工事請負金額(前年比)の推移(埼玉県)



資料:東日本建設業保証㈱

先行きは、住宅全般について、現状から横ばい程度の動きが予想される。このところ、木材や鉄鋼、アルミなどの資材価格が上昇しており、現在、販売価格への転嫁はみられないが、今後価格上昇、販売面への影響が懸念される。

(6) 百貨店・スーパー…スーパーは堅調に推移

百貨店:7~9月期の売上は前年を下回ったようだ。新型コロナウイルスの感染急拡大で緊急事態宣言が再発出され、外出を控える動きが広がったほか、混雑時に入場制限を実施したため来店客が減少し販売が低迷した。新型コロナ感染拡大前の一昨年比でも大幅に減少した模様である。4~6月期は、前年に新型コロナの影響で休業や時短営業が広がり、その反動で大幅に増加していたが、7~9月期は再び前年割れとなった。

品目別では、主力の衣料品は、気温の低下とともに持ち直しの兆しがあるものの低迷が続いている。テレワークや外出を控えるなど、新しい服を着て出かけるという需要が少なくなっている。アパレルブランドの廃止や、ショップの退店があり売場面積も減っている。

一方、食料品の売上は堅調である。巣ごもり需要の高まりで内食傾向が続いている。肉や魚などは値段が高めの食材の売れ行きが良い。食品関連の物産展も好調である。

新型コロナ感染再拡大など先行きの不透明感から、一般の中間層は消費に慎重だが、富裕層による高額消費は堅調な動きが続いている。バッグ、財布などの高級ブランド品や、アクセサリ、宝飾・時計、絨毯などの高額品が売れている。富裕層向けの外商の売上も増加が続いている。外食や旅行を控えており、その分を高額品の購入に振り向けているようだ。

先行きは、ワクチン接種の進展を背景に、方向としては人出も増え消費意欲も高まるとみられ販売は上向くと予想されるが、感染再拡大による下振れリスクもあり不透明感は強い。ネット販売やライブコ

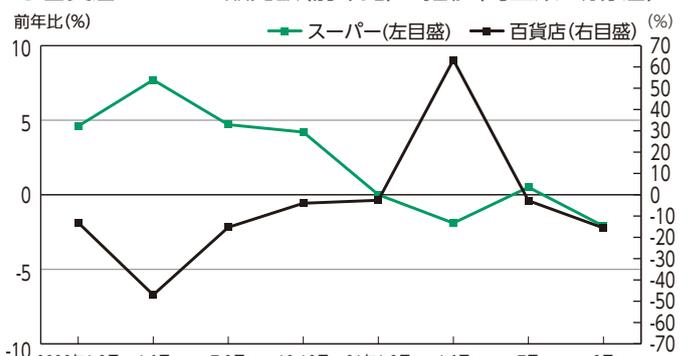
マースの強化などでリアルからネットへのシフトを図る計画である。

スーパー:昨年2月以降、新型コロナの影響に伴う巣ごもり需要から、県内スーパーの売上は前年を大きく上回る増加が続いていた。増加が一巡した本年2月以降は前年割れの月が多かったが、新型コロナ感染拡大前の一昨年比では増加しており、スーパーの売上は堅調に推移している。

品目別では、主力の食料品の好調、衣料品の不振という傾向は変わっていない。外食を控え自宅で調理する内食傾向が続いている。総菜などの調理済の商品は堅調である。外出・旅行を控えているため、その分の支出を上質な食品に回しているためか、比較的単価の高い商品も売れている。マスクなどの必需品も落ち込みはない。またネットスーパーも好調が続いている。一方、衣料品は不振が続いている。大きく減少した前年に比べると増加した月もあったが、一昨年対比では減少傾向は変わっていない。

先行きについては、昨年からの売上増が一巡するため売上は前年を下回るとみられるが、食料品は好調、衣料品は低迷という傾向は変わらず、一昨年対比では増加が続くだろう。ただし、感染再拡大のリスクがある一方で、ワクチンの普及に伴い新型コロナが収まるにつれ、外食や旅行などへ消費の傾向が変わることも予想され、販売に影響する可能性もある。

●百貨店・スーパー販売額(前年比)の推移(埼玉県、既存店)



資料:経済産業省「商業動態統計」